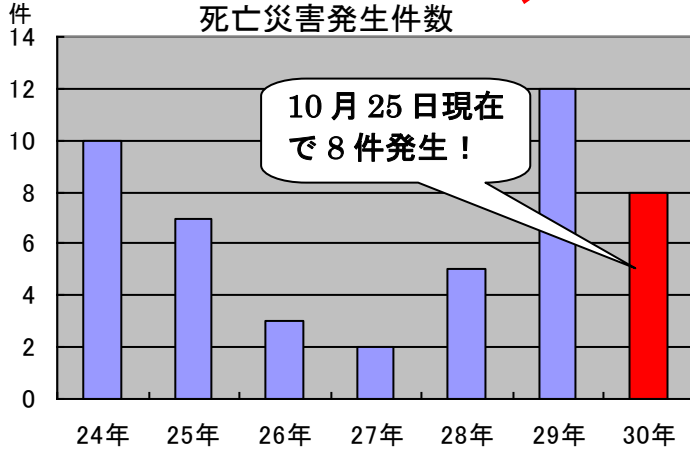


死亡災害多発警報発令中!!



当署管内では、昨年死亡災害が急増し、大阪労働局管内の労働基準監督署の中でワースト1となる12件（一昨年は5件）の死亡災害が発生しました。このような状況を踏まえ、当署におきましても今年度からスタートする「第13次労働災害防止推進計画」の目標を達成するために「リスク“ゼロ”大阪推進運動」を積極的に展開し、労働災害、とりわけ死亡災害の大幅な減少を目指しているところでありますが、10月25日までに発生した死亡災害は、8件となり、昨年からの増加傾向が続いており、極めて憂慮すべき状況となっています。

死亡災害は、本来あってはならないものです。事業者の皆様におかれましては、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという強い決意のもと、大阪労働局が展開している「リスク“ゼロ”大阪推進運動」の趣旨をご理解いただき、企業の安全衛生活動を今一度総点検し、労使が一体となって以下の取組を徹底していただきますようお願いいたします。

平成30年 東大阪労働基準監督署死亡災害の概要（全産業）								平成30年10月25日	
番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
1	1月	倉庫業	男	30代	作業員	1か月	墜落、転落	フォークリフト	倉庫のラック3段目(高さ約2.3m)の荷物を取るため、ピッキングリフトを昇降させ、ピッキングリフト運転席からラック上の荷物を取ろうとしたところ、バランスを崩し墜落した。なお、保護帽は着用していたが、安全帯は着用していなかった。
2	1月	社会福祉施設	女	50代	社会福祉事業専門職員	5年	交通事故(道路)	移動式クレーン	利用者宅へ向かう途中、被災者が運転する二輪車が道路左側を走行中、後方から走行してきた大型車(移動式クレーン)と接触、転倒し轢過された。
3	7月	建築設備工事業	男	10代	とび工	2年	飛来・落下	玉掛用具	マンション外壁改修工事(15階建て)において、足場組立て作業中にウインチを用いて足場部材(1200鳥居枠)の荷揚げ作業をしていたところ、13階部分で足場材を取り込む際、スリングベルトがフックから外れ部材が落下し、地上で作業をしていた被災者に当たり被災した。
4	7月	その他の金属製品製造業	男	50代	作業員	10年	墜落・転落	階段・棧橋	事業場内において、昼休憩後、1階と2階を繋ぐ屋内階段の地上部分で倒れている被災者を発見、救急搬送されるも「外傷性くも膜下出血」により、搬送先で死亡した。階段から転落したものとみられる。
5	7月	その他の電気機械器具製造業	男	40代	作業員	22年	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	事業場内において、作業していたところ、16時頃に倒れているところを発見、救急搬送されたが、死亡した。熱中症によるものとみられる。
6	8月	その他の事業	男	70代	作業員	16年	墜落・転落	その他の仮設物、建築物、構築物等	生産設備に組み込まれたリフターの月例点検のため、ホイストの操作ボックスを開いて運転操作をしていたが、足がかりにしていた搬器の囲い又は手すりから約4.7m下方に置いてあった金型上に墜落した。
7	8月	その他の商業	男	30代	作業員・技能者	5年	転倒	移動式クレーン	配送作業員として所属事業場所有のリース機械である高所作業車をつり上げ荷重2.6tの車両積載型移動式クレーンの荷台に載せて、建設現場に運搬した後、小型移動式クレーンを用いて高所作業車をつり上げ地上に下ろそうとしたところ、小型移動式クレーンが横転し、つり上げていた高所作業車の下敷きとなった。
8	10月	その他の建設業	男	20代	とび工	3年	墜落	架設通路	マンション大規模修繕工事において、足場の組み立て作業中、地上からウインチで吊り上げられた建柱(600枠)4枚(約50kg)を受け取り架設通路上を移動中、17層目(高さ約30m)から地上に墜落した。

リスク“ゼロ”大阪推進運動 実施要綱

1 趣 旨

リスク“ゼロ”大阪推進運動は、「災害ゼロ・疾病ゼロの大阪」を実現することを究極の目標として、労働災害の防止、重篤災害の撲滅に向け、働く者すべてがそれぞれの立場で自主的に安全衛生活動を実践し、職場風土と安全文化を構築していくための啓発運動である。

この運動は、平成30年度を初年度とする「大阪労働局第13次労働災害防止推進計画」の目標を達成するため、工場、現場、事務所、店舗などの職場に潜むリスクの洗い出しを行い、これに基づき設備の改善、作業手順の見直し、安全衛生教育の実施などの対策の徹底により、災害のリスクをなくし、「正規」「非正規」等の区別無く、全ての労働者の健康が確保され、安全・安心に働くことができる職場の実現に取り組むものである。

この運動は、大阪労働局、管内各労働基準監督署、各労働災害防止団体、労使等の関係者が連携し、積極的に展開するものである。

2 スローガン

『リスク無くして、ゼロ災害』

3 期 間

平成30年度から5か年

4 主唱者

大阪労働局及び府内各労働基準監督署

5 協賛者

公益社団法人大阪労働基準連合会・中央労働災害防止協会近畿安全衛生サービスセンター・中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター・中央労働災害防止協会大阪安全衛生教育センター・建設業労働災害防止協会大阪府支部・陸上貨物運送事業労働災害防止協会大阪府支部・港湾貨物運送事業労働災害防止協会大阪総支部・林業・木材製造業労働災害防止協会大阪府支部・一般社団法人日本ボイラ協会大阪支部・一般社団法人日本クレーン協会近畿支部・公益社団法人建設荷役車両安全技術協会大阪支部・一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会大阪支部

6 実施事項

本運動は当該期間中、下記の5つの活動を推進する

(1) 安全見える化活動

健康が確保され安全・安心な職場を実現するため、工場、現場、事務所、店舗などの職場に潜む危険や安全衛生活動等を積極的に目に見える形にすることにより、労使の自主的な労働災害防止活動を促進する。

(2) 安全 Study 活動

指示された作業を適正に行うだけでなく、自ら考えて行動できる（考勤）教育を推進する。また、高齢労働者、非正規雇用労働者等は、身体機能の低下や作業に不慣れなことなどによる災害の発生が懸念されることから、雇入れ時教育や危険体感教育等について、それぞれの特性に応じた教育の実施を推進する。

(3) リスク評価推進活動

死傷災害等の労働災害全体を一層減少させるため、事業場における危険性又は有害性の特定、リスクの見積り、リスク低減措置の検討等を行い、それに基づく措置の実施を行うリスクアセスメントを広く定着させるため、その取組を促進する。

(4) 命綱GO活動（いのち つなごう）

安全帯（別名「命綱（いのちづな）」とも呼ばれている。）を着用しながらも使用しないことで多くの人命が失われている。墜落・転落により命を落とすことなく、確実に使用することで命をつなぐことができる用具であることにゴロを合わせ、安全帯の使用を徹底する。

(5) 今日も一日ご安全に活動

建設現場や工場などで広く挨拶に用いられる「ご安全に」の由来は、ドイツの炭鉱夫たちの間で使われていた「ご無事で」という挨拶が由来とされている。休業件数の多い第三次産業を対象に、「私はケガをせず無事に帰宅します・私は仲間の作業の安全を確認します」の意味合いを込めて、「ご安全に」の挨拶を普及させることで、店舗内等における労働災害を防止する。

7 具体的実施事項

(1) 局・署の実施事項

- 「リスク“ゼロ”大阪推進大会」及び「安全衛生表彰式」を開催する。
- 「大阪職場の健康づくりフォーラム」において「リスク“ゼロ”大阪推進運動」を啓発する。
- 全国安全週間準備期間中、大阪労働局長によるパトロールにおいて「リスク“ゼロ”大阪推進運動」を啓発する。
- 災害防止団体等と連携し、5つの活動の周知を図ると共に、リスク“ゼロ”大阪推進運動の啓発を図る。
- 「安全の見える化」事例集を活用し、多くの企業において「安全の見える化活動」を啓発する。
- リスクアセスメントについて、作業内容等に即したマニュアルを活用して具体的な実施方法を示すことにより、その実施率を着実に向上させる。
- 第三次産業（小売業・飲食店）に対して、集団指導等により「今日も一日ご安全に活動」を啓発する。
- 第三次産業（社会福祉施設）に対して大阪府・大阪市等の各自治体と連携して集団指導等により「リスク“ゼロ”大阪推進運動」を啓発する。
- 熱中症対策について、個別指導・パトロール・研修会等において「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」とともに「リスク“ゼロ”大阪推進運動」を啓発する。
- 墜落・転落災害の防止を図るため「命綱GO活動」を周知・啓発する。
- 安全の見える化事例のパネルを署の掲示版等に掲載し、「安全見える化活動」を啓発する。
- 「大阪リスクアセスメント普及促進計画」に基づき、局署一体となって体系的・計画的に推進する。
- 高齢労働者、非正規雇用労働者等においては、身体機能の低下や作業に不慣れなことなどによる災害の発生が懸念されることから、雇入れ時教育や危険体感教育等について、それぞれの特性に応じた教育の実施を推進する。

(2) 協賛者の役割

- 協賛者は局・署と連携して、5つの取組事項を中心に「リスク“ゼロ”大阪推進運動」の啓発活動を広く展開する。

（以下略）